

ツルの自然体験学習会

今年度も、地元の東中筋中学校と東中筋小学校の子どもたちが、「ツルの里づくり」の取り組みについて学び、越冬地整備を手伝ってくれました。

「今年もたくさんのツルが来て、他の地域から注目されて、四万十市を訪れる人が増えたらよいと思います」と頼もしい感想をくれた子もあり、会員一同、大変嬉しく感じました。

~~~~~

## 夏の学習会 6月15日



中山箇所的人工湿地での、ツルのえさとするための稲の苗植え



江ノ村箇所の自然環境についての解説



ツルのえさとなる小魚、エビやカニなどの観察

## 秋の学習会 10月25日



ツルを呼び寄せるための模型「デコイ」の設置



ツルに関する講義

## つるの雑記帳

平成28年9月30日に総会を開催

今年度も例年どおり、「ツルのえさ場・ねぐらづくり」、「ツルの飛来状況調査」、「ツルの自然体験学習会」、「四万十つるの里祭り」を行うことが決定しました。

このほか、事務局より、8月に環境省主催で開催されたナベヅルやマナヅルに関する全国的なワークショップに参加したことを報告しました。四国を一括して新越冬地として捉える提案に対し、当会からは「まずは四国内のネットワーク組織が必要」と訴えたことなどを説明しました。



### ツルを見かけたらお願い

ツルは非常に警戒心が強い鳥ですので、近寄らないで静かに見守ってください。写真撮影や観察は、ツルから200～300m離れた場所で行ってください。

### 四万十つるの里づくりに関するお問合せ

四万十つるの里づくりの会 事務局  
〒787-0029 高知県四万十市中村小姓町46 中村商工会議所内  
tel: 0880-34-4333 / fax: 0880-34-1451  
mail: naka10@cciweb.or.jp

セブン-イレブンみどりの基金  
一般財団法人セブン-イレブン記念財団 この会報は、2016年度一般財団法人セブン-イレブン記念財団の助成を受け、発行しています。

# 四万十つるだより

人と自然の共生する「ツルの里」をめざして

Vol.22 ●発行日／平成29年1月20日 ●発行／四万十つるの里づくりの会  
<http://www.shimanto-tsuru.com>

※「四万十つるだより」内のツル類の写真の一部は、故 澤田佳長氏(野生生物環境研究センター所長)よりご提供いただいたものです。

## 冬の使者ナベヅル、今年も四万十市に

四万十つるの里づくりの会では、今年も高知野鳥の会や日本野鳥の会高知支部、地元の皆さん、国土交通省などと協力し合って、ツルの飛来状況調査を行っています。

今季の初確認は、平成28年10月27日に四万十川の砂州をねぐらとしていたナベヅル13羽でした。現在までの日最大確認数(地上に降りている数)は10月29日の39羽で、その後も10～20羽程度で推移しましたが、11月末頃からはほとんど姿を見せていません。

ツルは警戒心が強く、人(特に、犬を連れた人)や車が近づくと飛び去り、今季は四万十市では長期間滞在していません。皆さんの近くにも再び飛んでくるかもしれません。ツルを見かけたら、遠くからそっと見守ってください。




採餌(くびが上がついていないので、警戒を解き安心して過ごしていることがわかる)



飛行



ねぐらの様子(外敵に襲われないように、川の中で寝ている)

### ツルの里づくり Q&A

Q. 飛来状況調査って、どんなことをしているの?

A. 初渡来確認後は毎日、夜明けにねぐらに行き、そこにいる種類と羽数を確認し、ねぐらから飛び立ったら、その方角にある水田地帯を巡回して、ツルが降りている場所(えさ場)と羽数を確認します。えさ場を飛び立った時にはどこへ行ったのか探索し、夕暮れ時にはねぐらに戻ってくるかも確認します。

このほか、ツルがいるという情報が入れば急行し、その場所と種類・羽数を確認します。協力者のオ々と日々連絡を取り合い、ツルが北に帰る時期まで調査を行います。

四万十つるの里づくりの会 事務局